

# 原発のない社会 福島避難女性 福井で訴え

原発のない社会づくりを考える集会在十一日、福井市のJR福井駅西口にある屋根付き広場「ハピテラス」であった。東日本大震災の原発事故で、福島県富岡町から水戸市に避難している木田節子さん(六三)が登壇し、関西電力大飯原発(おおい町)の3号機が十四日にも再稼働をすることに「福島のような大変な事態になっても、事故が起きるまでにはもう遅



原発の事故が「起きてしまっ  
てからでは遅い」と訴え  
た木田節子さん(六三)十一日、  
福井市のハピテラスで

い」と呼び掛けた。

木田さんは、毎年三月十一日に合わせて福島を伝える報道に関して、原発事故の爆発現場の収束状況や将来の見通しが中心になっているとする一方、「全国の原発が次々に再稼働されようとしていることは触れない」と指摘。「福島の避難者としては『あの日が繰り返されてしまう』と気がかりでならない」と訴えた。

元京都大防災研究所助教授の赤松純平さん(七三)神戸市でも講演。大飯原発の基準地震動(地震の最大の揺れ)について、関電が敷地地盤の調査データを恣意的に解釈しているなどとして「原発の耐震安全性が担保されない」と述べた。

集会は、県内で脱原発を訴える団体などでつくる実行委員会が、震災翌年の二〇一二年から毎年開いている。この日は、三百五十人が参加した。(鈴木啓太)